

新年に寄せて

光陽の里楽農会

野田芳宏

平成28年が始まりました。明けましておめでとうございます。新年に当たり、今年はと言う事で、あらためてこう言う生活をしようと思えます。「老いゆけば我と共に、最善はこれからだ！人生の最後のために最初も作られたのだ！」くろバート・ブラウニング

今年2月で70歳になります。今年は今ある自分が最も最大であるという自覚をもって生きてゆこうと思います。過去の集積で今があるわけではなく、今の自分が今までの最大であるという気持ち。老いが自分であると、過去(若いとき)の比較ではなく、今ある自分が今までの人生で最高の自分であるというところで、これからの人生を送りたいと思う。光陽の里が皆様のおかげで借りることが出来、こうして16年の

間、今以て百姓が続けられることが最大の悦びであることを忘れずに！

化学から

物理の時代へ

「倉馬の里」 藤本 将

1961年農業基本法が制定された。農業の近代化が叫ばれて約50年あまりが経過しました。

近代化農政の一つの柱は農薬・化学肥料の多投による省力化でした。それは担い手不在の農業にとつて大きな役割を果たしましたが一方で「食の安心」や「自然環境」への懸念ももたらしました。

里山倶楽部は昨年「布マルチ稲作」に取り組みました。綿製の布で水田雑草の光合成を抑え、また芽を出したヒエを物理的に抑えるという稲作です。

化学的な方法から物理的な方法

で雑草を抑え省力化を図ろうとするものです。

いわば原始物理学です。

今年「布マルチ稲作」を圃場整備が進んでいる掛川市初馬地区に普及を働きかけたいと思います。

過程を楽しむ

里山倶楽部 溝口博之

十年前、仕事をほぼ息子に任せ、光陽の里で小さな農業を始めました。当時より作物はよく取れるようになりましたが、自家消費しきれないものを友人たちにあげる程度の楽しみ農業で「自然の氣」を貰っています。

食品を工業製品と同じテーブルで利益追求の商品としている限り、農業経営は難しく、後継者はいなくなり農地は荒廃していくでしょう。消費者は食べ物自分の体を作るもの、健康を維持増進させるものと

して値段よりおいしき、安全性機能性優先の意識が広がらなければなりません。

工業製品の輸出で得たカネで食料を輸入して生きている日本の危うさは津野先生の仰る通りだと思います。国民皆農「みんなでやる小さな農業」の考えは生きがいづくり、健康作りの面からも進めて行かなければならない課題でしょう。

里山倶楽部を立ち上げて6年目に入りました。規約上の目的は、光陽の里や地域の人たちと協力し合い、無農薬小さな農業推進と農地、里山の自然を守る活動をする事です。ねばならない活動では息切れしませんが、結果よりその過程で生きがい生まれ、健康が増進され、人間関係が広がることが大事なのです。人間は生から死への過程を楽しむ生物です。